

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 111-0051
 住 所 東京都台東区蔵前二丁目17番4号
 氏 名 JFEケミカル株式会社 印
 代表取締役社長 濱上 和久
 (代理人)京浜工場長 佐藤 幸治
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	JFEケミカル株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市川崎区扇島1番地1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	コークス炉ガスの精製と副産物回収および工業ガス製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	42,408	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	京浜工場
		所在地	神奈川県川崎市川崎区扇島1番地1
		電話番号	044-322-1754
		FAX番号	044-322-1757
		メールアドレス	0

※受付欄	※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年度 ~ 平成24年度 (報告年度平成24年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	当社環境活動への取組みについてはホームページにて公表しています。 http://www.jfe-chem.com/ecology/

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況 (排出係数固定)

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 89,235 t-CO ₂ (調) 89,235 t-CO ₂	(実) 93,287 t-CO ₂ (調) 93,287 t-CO ₂	(実) 91,883 t-CO ₂ (調) 91,883 t-CO ₂	(実) 96,657 t-CO ₂ (調) 96,657 t-CO ₂	(実) 88,412 t-CO ₂ (調) 0 t-CO ₂
削減率		(実) -4.5 % (調) -4.5 %	(実) -3.0 % (調) -3.0 %	(実) -8.3 % (調) -8.3 %	(実) 0.9 % (調) 0.9 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	コークス炉ガス精製処理量	単位	t-CO ₂ /百万Nm ³		
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値	80.61	79.19	81.38	86.15	79.87
削減率		1.8 %	-1.0 %	-6.9 %	0.9 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	エネルギー使用量(温室効果ガス排出量)と密接な関係にあるコークス炉ガス精製処理量が6.4%増加した結果、温室効果ガスの総排出量は4.5%増加しましたが、温室効果ガスの排出量に係わる原単位については1.8%の削減となりました。
第2年度	基準年度に対し、エネルギー使用量(温室効果ガス排出量)と関係があるコークス炉ガス精製処理量が2.0%増加した結果、温室効果ガスの総排出量が3.0%増加し、排出量原単位は1.0%増加しました。これは環境規制強化への対応や新設備稼働等による総エネルギー使用量に占める固定エネルギー量が増加し省エネ効果を上回った為で、これら増エネ要因が無ければ、原単位増加抑制は可能でした。
第3年度	基準年度に対し温室効果ガス排出量は8.3%増加し、温室効果ガス排出量の原単位も6.9%と増加しました。これは、当初計画外の大規模投資による新設備の稼働と環境規制への対応強化による総エネルギー使用量増加(8.4%)に起因し、省エネルギー対策効果を大幅に上回った為で、この結果排出量目標、原単位目標とも未達となりました。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標)

<p>JFEケミカルは、親会社であるJFEスチールに準じ、日本鉄鋼連盟の自主行動計画に沿った高い目標を設定して地球温暖化問題に取り組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー消費量削減目標 平成22年(2010年)までに11.5%(285PJ/y)削減【対平成2年(1990年)】 ・CO₂排出量削減 平成22年(2010年)までに10.5%(20.3百万t/y)削減【対平成2年(1990年)】 <p>京浜工場として全社削減目標の0.35%相当のエネルギー消費量及びCO₂排出量の削減に寄与した。</p>
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第 1 号、 第 2 号、 第 4 号該 当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○地球温暖化対策推進体制の整備 ○主要設備等の保安全管理 ○燃焼設備の保安全管理 ○ポンプインペラーのコーティングによる電力削減 ○外部機関の活用
	第 1 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○地球温暖化対策推進体制の整備 京浜工場内に安全防災環境の管理業務を担当する専任スタッフを設置し、推進体制を整備しました。 ○ポンプインペラーのコーティングによる電力削減 冷却塔からの冷却水ポンプ 1 基のポンプインペラーのコーティングを実施しポンプ消費電力の削減を行いました。
	第 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○地球温暖化対策推進体制の整備 環境管理室の新設と要員を拡充し、環境エネルギーの管理業務の推進体制の再整備と強化を図りました。 ○ポンプインペラーのコーティングによる電力削減 冷却塔からの冷却水ポンプ 2 基のポンプインペラーのコーティングを前年に引き続き追加実施し、ポンプ消費電力の削減を行いました。
	第 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○主要設備等の保安全管理 還水冷却塔の点検を実施し、ファン、エリミネーター等の劣化部の補修を実施し、機能の回復を図りました。 ○燃焼設備の保安全管理 予算により計画を延伸 ○ポンプインペラーのコーティングによる電力削減 冷却塔からの冷却水ポンプ 1 基と予備機 2 基のポンプインペラーのコーティングを継続的に実施し、ポンプ消費電力の削減を行いました。 ○外部機関の活用 外部機関によるポテンシャル診断実施も、期待効果低い為中止
自動車等 (第 3 号該 当者等)	計 画	
	第 1 年度	
	第 2 年度	
	第 3 年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. グリーン購入の推進 2. 業務用社有車更新時における低燃費車の導入 3. 廃棄物の排出量の把握および削減に係わる対策技術検討の推進 4. 原材料輸送における温室効果ガス排出量の削減 5. 通勤における温室効果ガス排出量の削減 6. 川崎市温暖化対策推進会議(CG川崎エコ会議)への参加 7. 当社他地区工場への省エネルギー対策の水平展開による技術移転
第1年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事務用品の購入やOA機器の更新に対し、グリーン購入の推進を行いました。 2. 工場からの廃棄物の一部の減量化の推進を行いました。 3. 業務用社有車両の一部の更新に対し、平成22年度燃費基準5~25%達成車の充当しました。
第2年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事務用品の購入やOA機器の更新に対し、グリーン購入の推進を継続実施しました。
第3年度	<ol style="list-style-type: none"> 3. 業務用車両の更新に際し、平成22年度燃費基準25%達成かつ平成17年排出ガス基準50%低減車を充当しました。 4. 副産物輸送船の大型化による副産物輸送効率を改善削減しました。 5. マイカー通勤車両の構内乗入制限を実施し、扇島正門から当事業所間(約5km)の移動手段を構内バスに切り替えました。 6. 川崎市主催事業活動省エネルギー・節電対策セミナーへ参加しました。 7. 常圧蒸留塔の減圧化による省蒸気化対策を他地区工場で実施し、定常運転しています。

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	93,241	t-CO ₂
(調)	93,241	

(2) 事業所等単位（第 1 号、第 2 号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k1 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
東日本製造所 京浜工場	川崎市川崎区扇島1番地 1	1639	コークス炉ガスの精製と副産物回収	93,241 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 以上 1,500k1 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位（第 4 号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--